Q-3　南三陸町戸倉波伝谷地区　2012 年 2 月 28 日（火）

報告者名	政岡　伸洋	被調査者生年	生年未確認（男）
調査者名	政岡　伸洋	被調査者属性	南三陸町文化財保護審議委員、戸倉神社氏子総代
補助調査者	遠藤　健悟		
	大沼　　知		

話者は、現在氏子総代を務めており、神社の修理に際して、県の文化財課と事前に相談しておいた方がいいのではないかという判断のもと、話し合いを持つことになり、そこに同席させていただいた。ここでは、その中の波伝谷の現状に関わる部分のみ紹介する。

神社関連の被害の状況の説明と支援の必要性

津波の際は、本殿のさい銭箱近くまで水が来た。長屋門は水没して戸は流され、中のものもすべて流されてしまったが、建物は残った。本殿は浸水してはいないが、地震のため、さや堂の中の祠のこけら葺の屋根が壊れてしまっている。宮司さんはショックでなかなか判断できる状況ではなく、今後どうしていくか決めるのも難しい状況である。

これまで地域のさまざまな面を支えてきた契約講は、約 400 万円あった定期を取り崩して全員に分配し休講となったが、高台移転の話が出る中で、集落の機能を残す必要が出てきたため復活し、今年の春祈祷をどうするかが大きな課題となっている。

太鼓は流されたが修理できた半面、獅子舞の幕や衣装が流されてしまい、これをどうするかで困っている。獅子頭は 2 つとも残っており、練習用は流され耳が片方取れてしまったがその後見つかった。幕だけでも復活すればできるのではないかという話も出ている。春祈祷は本来、旧暦 2 月 15 日、現在は 3 月第 2 土曜日の契約の日の翌日に行うことになっているが、それだと準備は間に合わない。そこで、4 月 15 日の春祭りの日に行おうという話にはなっているが、波伝谷 75 戸のうち家そのものが残ったのは 1 軒のみ、しかし地震のため地割れがひどくて住めず、現在は仮設で生活しており、もとのように各家をまわるのは不可能な状況になっている。ただし、まわるのが不可能であっても、方法はともかくやろうという話になっている。

被害の状況を見て、氏子の領域ではないが、本殿が傾いたままでいいのか、仮宮にお遷しした方がいいのではとは思うが、自分の生活で精いっぱいで神社どころではない状況でもあるので、何か支援がないか、竹駒神社・塩竈神社にも修理や仮宮について相談し、地域のさし物屋にも見てもらったところ、修理はできそうということになったので、今回、宮城県とともに調査報告書を刊行した経験を持つ東北学院大学の担当教員にも相談させていただこうということになった。

波伝谷では、高台移転に関してアンケート調査を行っている。その結果、30 数軒が残りたいという希望を持っていることがわかった。そして、移る人も含めて高台移転協議会を発足しようという動きになっている。

コミュニティをまとめる吸引力をもつのが祭りである。神社を含めた祭を再開することが波伝

谷という村落を復活させることにもつながると考えている。

（県の担当者から、祭りを復活させることで人が戻ってくるなど反応がいいこと、ただし先の展開がはっきりと見えない中で急いで以前と同じように復活することで問題が出てくる可能性の説明を受け）話者は、2 次避難先の加美町にいたとき、志津川の上山八幡宮の宮司が、周辺の神職が集まり支援してもらうことで春祭りからやるという話を聞いて焦ってしまったようだ。4 月にお祭りをやるが、たぶん変則的にやることになるだろう。お金はないが漁の状況は良いみたいだし、神職を支える形で、復興への第一歩としてやっていきたいと考えているので、ぜひご支援ご指導いただきたい。